

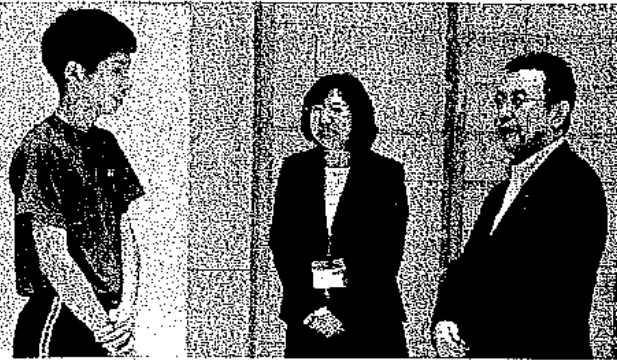
## デブリ取り出しへ 戦略プラン骨子案

### 支援機構が示す

原子力損害賠償・廃炉等支援機構は29日、東京電力福島第1原発1〜3号機の溶け落ちた核燃料(デブリ)取り出しに向けた「戦略プラン」の骨子案を示した。戦略プランは、今夏に取り出し方針を絞り込む際の技術的な根拠となり、骨子案には安全確保で配慮すべきポイントをまとめた。

骨子案では、1〜3号機のデブリ取り出しで想定される複数の選択肢を安全性や確実性、作業の合理性など五つの基本的な考え方に沿って評価するとした。放

射性物質の拡散を防ぐための閉じ込め機能やデブリの冷却機能の維持など、取り出しに必要な技術的な要件も盛り込んだ。  
機構の山名元理事長は同日、楢葉町で開かれた廃炉



高木氏と意見を交わす原田さん(左)と荒木校長(中央)

・汚染水対策福島評議会で骨子案を説明し「どうデブリを回収すれば、効率的にリスクを低減できるか見解を示したい」と述べた。  
高木陽介経済産業副大臣

## 再開の楢葉中視察

### 高木経産副大臣

政府の原子力災害現地対策本部長を務める高木陽介経済産業副大臣は29日、楢葉町の楢葉中を訪れ、楢葉南小、楢葉北小と一緒に4月から町内での学校活動を再開した現状を確かめた。

原発事故による避難指示解除を受け、楢葉町と同様に古里での学校再開を目指す動きが相次ぐことについ

は報道陣に「戦略プランが決まり次第、方針の絞り込みにしっかりと取り組みたい。廃炉工程表(ロードマップ)の見直しについても検討する」と述べた。

て、高木氏は視察後、報道陣に「少人数できめ細かな教育が魅力となる一方、通学手段の問題もある。課題への対応策を(避難指示が出た)各市町村で生かせるようにしたい」と述べた。

高木氏は、矢内賢太郎町教育長や楢葉中の荒木幸子校長らと意見を交わし、新しい校舎内と部活動の様子を視察した。3年でパドミントン部長の原田浩都さんと剣道部の関本優亮さん、宮本美紗登さんに学校生活の状況や通学手段を尋ね、「部活動も勉強も頑張って新しい伝統をつくってください」と激励した。